

総合人間学科

■哲学 南 桃菜さん (4年)



私は、現在哲学研究室に所属しています。ここでは研究室の活動について紹介します。

ひとつは、週に2コマほど学生だけで自主的に講義の予習に取り組んでいます。講義の内容は、主にネーゲルなどの哲学者の執筆した英語の論文を取り扱っています。学生が担当箇所の日本語訳または要約をレジュメにまとめ、それを基に論文を読み進めていきます。英語を日本語に訳すことはもちろんですが、内容を理解することも難しく感じています。最初は講義についていくだけでも大変で正直不安でしたが、現在は分からない部分を教え合うことのできる仲間がいるので心強いです。学生同士の自主予習を始めてから、講義の内容についてより理解が深められるようになったことにより自分で考える余裕も出来ました。また、時には学生同士で講義の内容について議論する場面もあります。

もうひとつが、卒業論文に関しての活動です。哲学研究室では、月に1回程度、研究発表会や大辻先生との面談があります。研究発表会では2回に1度、自分の研究内容を発表します。そこでの他の学生や大辻先生からの質問や議論は、自分の考えを客観的に見直すことが出来るとても良い機会だと感じています。また、他の学生の研究発表を聞くことも出来るので、とても面白いのです。そして、大辻先生との面談に関しては、先生がいとも親身になって話を聞いてくださるのでとても心強いです。

■芸術学 松下 萌さん (4年)



芸術学研究室では個性豊かな仲間が集い、音楽や美術、ファッションなどそれぞれが興味を持った芸術について幅広く研究しています。演習では、シミュレーションズに関するアーティストについて調べて発表を行ったり、コミュニティ音楽療法について学んだりしました。芸術に関する知識や経験がなくても、親身になって指導して下さる先生と共に、自由に意見を交わって楽しく学べることが芸術学研究室の魅力です。

私はゲームが持つ魅力について興味を持っており、中でもRPGを好んでいます。卒業論文では、大好きな『テイルズ オブ』シリーズについて、物語をナラトロジー的に考察したり、キャラクターの人格をユング心理学的に考えたりしています。長い歴史があるこのシリーズの魅力、様々な視点から考えるのはとても面白いのです。しかし、ゲームに関する専門の教授がいない中、一から研究を進めるのは容易ではありません。それでも、それぞれのメンバーが関心のある分野について否定せず、自由に研究をさせていただけるところも、この研究室の大きな魅力です。他のメンバーは、漫画における音楽表現やロリータファッション、SNSマーケティングなどについて、ユニークな研究を行っています。

卒業後は大学生活で学んだ知識を活かし、エンタメコンテンツを研究する側ではなく作る側として、より一層努力していこうと思います。

■心理学 仲井 郁穂さん (3年)



心理学とは人の心の動きや行動の仕方を明らかにする学問です。心理学が取り扱う分野は幅広く、生理心理学、社会心理学、臨床心理学など様々な分野に細分化されます。その中でも私たちが学んでいるのは認知心理学で、知覚や記憶などの認知活動に関わる心理過程を研究します。例えば、無意味綴りの言葉を複数提示した場合にいくつ記憶していることができるのか、というような課題を実験によって明らかにします。実験で得たデータを分析し、心の働きや行動の傾向を数値化して解明します。文系に属する学問でありながら、実験プログラム装置やエクセルを多用するため理系チェックな能力と技術が求められますが、寺本先生と安村先生の丁寧なご指導のもと日々研究に励んでいます。

現在私たちは、認知心理学の英語論文を読んで知見を増やすとともに、得られた知識をもとに自分が行いたい実験を考案し、計画を立てて実験プログラミングの作成やデータの測定を行う実践的な学習をしています。研究テーマは視覚・注意・文字・感覚など多種多様で、自分の興味とあう研究テーマに必ず出会えますし、研究室のメンバーがどのような興味を持っているのかわかるのが面白いです。実験を1から構築して具現化し、仮説どおりの結果が得られた時には真正正銘の感動を得られます。

■倫理学 南川 瑠衣さん (3年)



倫理学とは、人間の行動の規範となる物事の道徳的な評価、つまり善と悪などについて理解しようとする学問です。倫理学履修モデルでは、規範倫理学・応用倫理学・メタ倫理学、さらに深層心理学と幅広い分野の内容を学ぶことができます。

私が所属している研究室のゼミでは、それぞれ興味があるテーマについて発表を行い、そのあと全員でディスカッションを行います。安楽死、反出生主義、幸福について考えるほか、環境倫理、スポーツ倫理なども取り扱います。それぞれ興味を持っているテーマが様々なので、多角的に物事を検討することが出来ます。自分の選んだテーマについて全く違う観点からコメントをもらうことも非常に面白いですし、なにより、自分が今まで考えたこともなかった分野の問題について考えることも、新鮮でとても楽しいです！

私はLGBTsからフェミニズムまで、ジェンダーに関するものに幅広く興味を持っています。卒業論文の執筆に向けてひとつのテーマに絞り込むというのはまだまだこれからですが、自分が最も関心を持つ問題を見つけて、これから取り組むことができるのではないかと思います。

■社会学 大坪 桃果さん (3年)



社会学は、私たちが生活している社会で起きる様々な現象や問題について焦点を当て、「あたりまえ」を問う学問です。自分があたりまえだと思っていることでも、別のところでは全くそうではなかったり、自分の意志で決定したことだと思っけても、育ってきた環境や制度、秩序によってある程度定められていたりするので、先進国と呼ばれる日本においても格差や貧困は存在しており、見えない貧困とも言われます。なくなってしまうのはなぜでしょうか。ただ働かないから、収入が少なからという理由ではなく、そこには複雑な社会背景があるのです。アプローチの仕方は様々ではありますが、あたりまえを疑い、深く深く追求することの面白さが社会学の魅力のひとつであると思います。また、社会学では社会で起きている事柄が研究対象になるので、さまざまなテーマを取り扱うことができます。今年度の社会調査実習では「大学不本意入学者の意識や経験等について」というテーマでインタビュー調査を行い、現在はインタビュー内容から学歴や学校の教育制度など、各々の関心のあるテーマで分析を行っていますし、ゼミの課題研究では貧困問題について研究を進めています。インタビューや文献からの情報収集はとても大変で難しいですが、社会学でしか経験できないことであり、そこから身につけた社会的な視点が、今後の卒業論文、あるいはその先の人生においても生かせると思っています。

■文化人類学 水谷 はつのはさん (3年)



文献研究やフィールドワークを通して、世界の「文化」の比較や研究を行うのが文化人類学です。私たちが普段何気なく接しているモノや、疑問を持たず行う行為などが比較・研究の対象になるので、私たちにとっての「当たり前」は当たり前ではないということに気がつき、最近のキーワードである「多様性」を知ることが出来ます。このことが文化人類学を専攻する真髄です。私自身も、自分とは違う考え方を否定するのではなく、世間にはそういう考えもあるのだと受け入れるようになりました。

ゼミは、課題図書を読んで、要約したレジュメを作ってzoom上で発表する授業と、興味のあるテーマに関する論文や書籍を資料にして、それらを見せながら発表する授業が開講されています。自分の発表に対するコメントーターを設けて、質問や感想を聞くことで、様々な考え方や新たな気付きを得ることが出来ますし、卒業論文を執筆するうえでとても役に立ちます。ゼミはテクニク系やモダニズム系、そしてアラブ系の学生が在籍し、グローバル化しているので、彼らの考え方や故郷の文化を知って比べることや、様々な系統のことばを聞いたりすることが面白いです。

学期終わりには、授業お疲れ様会と題してzoom飲み会も開催しています。新型コロナウイルスの影響でいつになるかは不透明ではありますが、対面でゼミの皆さんと、中東や中央アジアのエスニック料理を食べに行くことが出来る日を楽しみにしています。

■地域社会学 古賀 美有さん (3年)



地域社会学は、現実の地域社会が抱えている具体的な課題について取り組む学問です。地域社会学研究室では毎年、様々な地域に調査実習に取り組んでいきます。今年度は、阿蘇郡高森町の町誌の編集に携わる機会を頂き、くらしや農林業について地域の方に聞き取り調査を行いました。私は、主に草原の利用方法や、かつて高森町の小学校で行なわれていたうさぎ追いについての調査を行いました。この実習を通して現場での調査の経験を積むことができたと考えています。ゼミでは文献を読み進めながら、様々なテーマについてのディスカッションを行っています。ゼミの中で扱う内容は、環境や福祉、農林業など地域社会に関すること全般で、幅広く学ぶことができました。また、親身になって指導して下さる心優しい牧野先生と吉武先生のもと、とても恵まれた環境で勉強することができています。

本研究室で学び、新たな人と出会いながら過ごしたこの一年間はとても有意義なものでした。研究室の個性的で面白い仲間たちから、たくさんの刺激を受けながら過ごせたことで、私自身大きく成長できたのではないかと考えています。来年度は調査実習やゼミで学んだことを活かし、卒業論文の制作に向けて尽力して参ります。

■民俗学 松本 愛洋さん (4年)



民俗学とは現在の人々が伝承あるいは保持している文化を対象とし、それらの変遷や成立の過程を探る学問です。そして、民俗学では実際に現地を歩き、人々の暮らしを見て様々な話を聞くことが基本だとされています。

民俗学を学ぶ学生たちも実際にフィールドに飛び込みながら民俗学を体験していくことになります。2年次の社会調査実習では調査計画立案から始まり、現地での聞き込み、報告書の作成までを学生たちが主体となって行います。

3、4年次では卒業論文執筆に向けて各々が自分の関心に合わせてテーマを設定し、実際にフィールドワークを行いながら研究を進め、ゼミでの発表を行いながら自分の研究をブラッシュアップしていきます。今年も研究テーマは幅広く、天草の焼酎や九州のお菓子、佐賀県のクリークや御朱印など様々です。

私は地元である岡山県の伝説を研究テーマに設定し、フィールドワークを行いました。行き詰まることもありましたが、先生のアドバイスをゼミ生からの質問などで新しい視点を得ることができました。自分の興味ある事柄に向き合い、現地で調査や議論を重ねることで多くのことを学ぶことができたと考えています。

■地理学 永秋 優さん (3年)



地理学とは、「なぜそこでその現象が起きるのか」、「場所や地域による違いがなぜ生じるのか」、「地域の諸問題の原因は何か」などを考える学問です。研究室には、地図を見ることが好きな人や、街をぶらぶら歩くことが好きな人が集まっています。先輩方は、獣害の問題、宗教施設の役割、移住者、商店街の祭礼行事、被災地の災害公営住宅、日系多国籍企業、再開発地区、人口動向、陶磁器などのテーマで卒業論文に取り組まれています。このように、あらゆる視点から地域を見ることができるとして地理学の特徴です。また、地理学には、インタビュー、アンケート、資料やデータの分析など、様々な研究の方法があり、自分の得意・不得意から研究の方法を決めることもできます。

この1年、私たちは、地理学の担当教員である鹿嶋先生と米島先生の時に優しく、時に厳しい指導のもと研究に励んでいます。授業では、GIS(地理情報システム)の使い方や地図の作成方法などを学びました。また、夏休みには、院生の方の聞き取り調査に同行する機会があり、大変貴重な経験をさせていただきました。ゼミでは、先輩方の卒業論文の研究の発表を聞いたり、自分たちの卒業論文の構想を発表したりしています。これからも体調に気を付けながら、学生生活を送りたいと思います。